



所感!どうなる国内市場への 外資系物流関連企業の参入は?

株式会社 カナツー
代表取締役社長

小倉 壽之(日本MH協会 常務理事)

新年あけましておめでとうございます。

いざなぎ景気越えの長期回復景気の中、良い新春を迎え本年に懸ける万事への挑戦意欲はイノシシのごとくと推察いたします。

わが国を代表する産業である、自動車・食品・医薬品業界などは、昔からボーダレス化で海外メーカーの国内市場への参入が行われましたが、国内市場に融合し内・外企業間での協調ある競争が活発に行われ、現在も業界全体がそのまま全世界での国際化対応で正常且つ活発に動いていると考えます。

これら国際化に順応した業界の共通点として、官・財界とこれらの主たる業界団体が密接に連携し、同業界団体の会員企業は国内・外を網羅したメーカー集団化し活発な事業活動を通じて、相互に国際的視野での情報交換や技術交流など、業界全体のボトムアップを念頭にした実ある活動を通じ、会員自ら参画した事業成果の中で学び、個々の会員メーカーが独自色を出しながら競争していくという体制があるからではないでしょうか？

一方産業界によっては、今国内に忍び寄る国際化に気付かず又は気付いても一企業では対応策が見出せない業界もかなり多くあるのではないのでしょうか？

国際化への対応には、欧米と日本の企業文化の格差(品質・環境管理手法や経営感の差)など多くの障壁があると言われております。

今こそMH関連企業も結束を強化して、業界総意でこの問題への対応を協議する場を持ち、所轄官庁や関連団体に提言が出来る、リーダーシップの協会団体を構築する必要があるのではないのでしょうか？そういう視点において、日本MH協会のこれからの役割は極めて重要であると考えます。

会員の皆様、是非全国の関連MH企業へ、当協会への会員拡大に向けてご協力の程お願い申し上げます。

「会員の運営による会員及び業界そして社会に貢献する為の運営」に参画を切望します。